

## 第9回平和首長会議総会

### 記者会見

2017年8月10日（水）13：00～13：45

長崎大学 中部講堂

平和市長会議会長	松井 一實（広島市長）
平和市長会議副会長	ケンファック（フォンゴ・トンゴ市長・カメルーン）
平和市長会議副会長代理	トーマス・ヘルマン（ハノーバー市副市長・ドイツ）
平和市長会議副会長	キダー・カリーム（ハラブジャ市長・イラク）
平和市長会議副会長代理	カルメ・バーバニー（グラノラズ市・スペイン）
平和市長会議副会長代理	ヤスミンカ・バリョ （ビオ・グラード・ナ・モル市参事官・クロアチア）
平和市長会議副会長代理	ミシェル・シボ（マラコフ市名誉事務総長・フランス）
平和市長会議副会長	エディ・ニューマン（マンチェスター市ロードメイヤー・イギリス）
平和市長会議副会長代理	ジェフ・ヴェルショーレ（イーペル市市長代理・ベルギー）
平和市長会議副会長代理	エイドリアン・グラモーガン（フリマントル市代表・オーストラリア）
平和市長会議副会長	田上 富久（長崎市長）





## 記者会見

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ただ今から、記者会見を行います。私は進行役を務めます、長崎市広報広聴課長の水田と申します。よろしくお願いいたします。

本日の記者会見には、第9回平和市長会議総会に参加していただいた役員都市の皆さまがご出席しておられます。会見時間は45分の予定です。先ほど採択されました「ナガサキアピール」および「核兵器禁止条約の早期発効を求める特別決議」の説明を行い、その後、出席者の皆さまから会議を終えての感想を述べていただきます。記者の皆さまからの質問はその後にお受けしますので、よろしくお願いいたします。

まず、松井広島市長、会議全体の総括をお願いいたします。

**松井 一實（広島市長）**：第9回平和首長会議総会の総括をさせていただきます。私たちはここ長崎におきまして、『核兵器のない世界』の実現を目指して—2020年に向けて、今、私たちができること—を基調テーマとして、4日間かけ、世界各国の加盟都市からの参加者の皆さんと議論を重ねました。その議論を重ねる中で、各都市で行われているさまざまな創意あふれる実践を知ることができるとともに、これからの取り組みについて決意を新たにすることができたのではないかと受け止めております。

とりわけ、今年の7月7日に、私たちが被爆者と共にその必要性を訴えてきた核兵器禁止条約が採択されました。この条約は、この平和首長会議が掲げる2020ビジョンの趣旨と完全に合致したものであり、核兵器廃絶を達成していく上での重要なステップになるものという認識でおります。

従いまして、平和首長会議としての今後の課題は何かということになれば、核兵器の廃絶というのは市民社会の創意であるという認識の下で、核兵器を持っている国は核軍縮を誠実に進めるということ、そして、国連および全ての政府が今度採択された核兵器禁止条約の早期発効と、その参加国の拡大を進めていくということ、そのための環境づくりをしていくということになるのではないかと考えています。

そこで、平和首長会議としては、こうした課題を踏まえながらも、最終的な目標である世界の恒久平和の実現を目指していくことがますます重要になっている中で、この取り組みを見たときに、これまで立てていた取り組みの柱に、新しい取り組みの柱を加えることにいたしました。今までは核兵器のない世界の実現という一つの柱で取り組んでまいりましたが、もう一つ、「安全で活力のある都市の実現」という取り組みをもう一つの柱として掲げて、今度の2020年までの行動計画を策定したところであります。

今まで取り上げてきた「核兵器のない世界」の実現に向けての取り組みにおいては、被爆者の切実な思いが広く共有されて、核保有国やその同盟国を含む全ての国による核兵器禁止条約締結が促進されるようにすること、そして、加盟都市や市民社会と協働しながら各国政府への要請をしっかりとやっていくということが重要になるという思いでおります。

また、今回新たに掲げました「安全で活力のある都市の実現」という取り組みに関しては、平和の実現を拒む諸問題の根本的な解決のために、平和文化を構築するということを重視していくこと、それとともに、テロ、難民、環境破壊などの地域特有の課題に対処するためのリーダー都市を中心とした地域における具体的な活動、これを加盟都市は支援していくことがますます重要になっていること

を明確にしました。また、こうした一連の取り組みとともに、国連が掲げている開発目標、平和や都市の発展、教育に関する持続可能な開発目標を達成するための具体的な活動も同時に支援していくということにしました。

いずれの取り組みに関しても、それらがこれから確実な進展を遂げる、あるいは確実に実効を上げるようにするためには、国際世論の醸成拡大が不可欠です。とりわけ次世代を担う若い世代の意識啓発が重要になります。次世代を担う若い世代がまず、過去にあった事実をしっかりと知り、それを自らのものとして将来に向けていかに生かしていくかということが重要になることから、平和教育の実施を今後の重点的な取り組みの一つと位置付けるということになりました。

そして、昨日の会議Ⅲ「若者の役割」のコーナーでは、加盟都市の首長たちと若者が共に、その都市における平和活動について議論し、提言をするという大変意欲的な取り組みがありました。大変好評を得て、大いに成果を上げたと思います。素晴らしい具体的な提言もありましたので、加盟都市はそれらを生かすことができるようにするための工夫をこれからしていきたいと考えます。とともに、今後も各都市のさまざまな実践例や教材をウェブサイトなどで共有して、このような取り組みの広がりを推進していくことにしました。

今回の総会でも再確認できたことですが、私たち平和首長会議が世界 162 カ国・地域、計 7,400 を超える加盟都市のネットワークを持っているということは、国際世論を形成する上での強みであり、これを活用しない手はないということです。この強みを最大限に活用して、加盟都市の皆さんと力を合わせて、今度できた行動計画に基づく取り組みを着実に推進していきたいと考えております。

なお、この計画策定に当たる上で欠かせないポイントという視点で三つの討論会を設けました。「都市の役割」についての議論、「若者の役割」についての議論、そして、「NGO・市民団体・被爆者団体等の役割」、いわゆる市民社会の役割という点からの討論です。それぞれ鈴木先生、中村先生、朝長先生にモデレーターをやっていただきました。これら三つの成果は先ほど総括したところでありますけれども、全体をあえてまとめて整理しますと、平和というのは全人類あるいは全世界の共通の願いであるということ、それを前提に、その願いをかなえる重要な役割は、これからの若い世代が担うという意味で、若い世代の役割は大いにこれからますます重要になる。そして、この願いを追求する上で、人間の安全保障という考え方に基づいて平和を追求する必要がある。それは同時に核兵器のない世界を追求する考え方と全く一致している。これを確認しながら、われわれ都市の役割、都市の集団であるわれわれ平和首長会議の役割は、志を同じくする個人、さまざまな団体、さらには国家との連携をしっかりとしたものにして、必ず核兵器のない恒久の平和を実現させるという決意の下で全力を尽くしていくことだという整理になったのではないかと思います。

そういうことを確認することができた、非常に意義ある会合であったのではないかと受け止めています。これからの皆さまのさらなるご尽力を期待して、私の総括を終えたいと思います。ありがとうございました。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございました。続きまして、「ナガサキアピール」および「核兵器禁止条約の早期発効を求める特別決議」について、田上長崎市長から説明をお願いいた



## 記者会見

します。

**田上 富久（長崎市長）**：長崎市長の田上です。私から「ナガサキアピール」と「核兵器禁止条約の早期発効を求める特別決議」について、ご説明いたします。

まず「ナガサキアピール」からです。今回のアピール文の柱は三つあります。核兵器禁止条約、リーダー都市を中心としたエリアごとの課題解決、平和文化の創造および平和教育の実践です。これらは平和首長会議の今後の行動についても、国連および全ての政府に対して求める行動についても共通のものとしています。

まず一つ目の柱の「核兵器禁止条約」についてです。平和首長会議の行動としては、条約の早期発効を目指し、より実効性の高いものとするために、被爆者、市民社会、条約推進国との連携をさらに深め、条約への参加を自分の国の政府に働き掛けていく、特に核保有国と核の傘の下にいる国々の政府には強く働き掛けていくこととしています。国連および全ての政府に対しては、NPTを遵守するとともに、核兵器禁止条約に参加することを求めています。

次に、二つ目の柱の「リーダー都市を中心としたエリアごとの課題解決」についてです。世界では核兵器だけではなく、化学兵器や紛争、難民、飢餓、差別、暴力、環境破壊、テロなど、さまざまな課題が出てきています。そこで、平和首長会議の行動としては、リーダー都市を中心としたエリアごとの課題解決を念頭に、国連の持続可能な開発目標を達成するための具体的な活動を支援し、さらに地域の課題に特化した人道活動を推進し、市民社会の安全と幸福を守るため、今後さらに加盟都市を拡大し、地域ネットワークを強化することによって、課題解決に積極的に取り組むこととしています。国連および全ての政府に対しては、人権の尊厳を奪う地球規模の問題の解決に尽力することを求めています。

最後に、三つ目の柱の「平和文化の創造および平和教育の実践」についてです。平和首長会議の行動としては、平和の実現を阻む諸問題の根本的な解決のため、平和文化の創造に向けて取り組んでいくこと。このため、平和首長会議の加盟都市は、子どもや若者の視点から未来を担う次の世代へ戦争体験を継承していく平和教育の重要性を認識し、平和教育実施のための活動の企画と推進を意欲的に進めていく。平和首長会議のネットワークに参加することで、都市はそれぞれの政策の中で平和文化を実践することができる、としています。国連および全ての政府に対しては、平和文化の創造、また、被爆や戦争の実相を学び、触れ、理解する機会の創出に尽力することを求めています。

そして、結び、最後に、以上を踏まえて、第9回平和首長会議では、2017年から2020年までの行動計画を採択したこと、私たちはここに一日も早い核兵器廃絶の実現と世界恒久平和に向けて全力で取り組むことを誓うとして、そのアピール文を締めています。

続いて、「核兵器禁止条約の早期発効を求める特別決議」について説明します。今回の総会は皆さんご存じのとおり、核兵器禁止条約採択直後の会議となります。また、今回承認されました2017年から2020年までの行動計画の中にも、核兵器禁止条約の早期締結を掲げています。ようやく誕生したこの条約を国際規範に育てていくためにも、市民社会から声を上げていく必要があります。

そこで、第9回平和首長会議総会の特別決議として、核兵器禁止条約の早期発効を求めることを理

事会で提案したところ、全員の賛成を頂き、本日の会議後、採択を頂きました。この特別決議は行動計画を実行に移す第一段の取り組みとしても大変意義があると思います。特別決議文では、核兵器保有国を含む全ての国に対し、条約への加盟を要請し、条約の一日も早い発効を求めることを決議するとしています。

私からの説明は以上です。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございます。続きまして、総会を終えての感想をお一人ずつ述べていただきます。なお、時間の関係がありますので、申し訳ございませんが、お一人1分以内でお願いいたします。まず、広島市からお願いいたします。

**松井 一實（広島市長）**：パスしてください。時間がありません。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：それでは、フォンゴ・トンゴ市、お願いいたします。

**ケンファック（フォンゴ・トンゴ市長・カメルーン）**：ありがとうございます。何度も御礼申し上げたいと思います。大変なおもてなし、ご歓迎を頂きました。広島と長崎での歓迎にお礼申し上げます。

われわれは採択した決議に満足しております。国に戻り、必死で今後も努力し、栄光の平和首長会議のメンバーを増やしていきたいと思っています。もう行動計画はできております。これから大学でも働き掛けます。学生のグループと共にやっていきたいと思っています。

アフリカの国々に対しても、われわれが採択した長崎での決議について説明していきたいと思っています。この平和首長会議がさらに拡大し、世界の平和を創造できるようにしたいと思います。そして、今後もさらに発展していくことがあればと思っています。

平和があれば、開発も行われます。われわれは現在、満足しておりますが、ここに来たカメルーンの人間のためでなく、アフリカ全域に関係することです。ですから、ここでアフリカの全ての国々、アフリカの全ての首長がこの平和首長会議のメンバーになるとお約束できればと思っています。そうすれば、この会議は非常に大きな会議になると思います。

ご清聴ありがとうございます。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございます。続きましてハノーバー市、お願いいたします。

**トーマス・ヘルマン（ハノーバー市副市長・ドイツ）**：会長、ご来賓の皆さま、ご参会の皆さま、事務局、開催都市長崎の皆さまに、今回の会議を運営していただいたことを感謝したいと思います。核兵器禁止条約、さまざまなグローバルな問題について良い議論ができたと思っています。本当に深く感銘を受けました。

平和祈念式典に、まず姉妹都市の広島において出席をさせていただき、そして、昨日は長崎で出席



## 記者会見

---

いたしました。尊厳な式典であったと思います。被爆者の方のスピーチにも心を強く動かされました。

ハノーバーに帰って皆さんの希望、皆さんのエネルギー、すなわち、私たちの素晴らしい新しい行動計画をこれから実施していき、私たちの今後の課題に合わせて取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございました。続きまして、ハラブジャ市、お願いいたします。

**キダー・カリーム（ハラブジャ市長・イラク）**：ありがとうございます。長崎・広島両市長、そして事務局の皆さま、この会議を開催していただき、ありがとうございます。会議では原子爆弾についていつも話していますが、シリア、クルディスタンにおいて化学兵器が今でも使用されています。この大量の破壊、殺りく兵器によってがあり、女性、子どもたちが犠牲となっています。

時間があまりありませんので述べられませんが、今後ともこの会議が成功することを願っております。ぜひとも皆さんにお伝えしたいこととして、ハラブジャにおいてぜひ理事会を2019年に開催できればと願っております。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございました。続きまして、グラノラズ市、お願いいたします。

**カルメ・バーバニー（グラノラズ市・スペイン）**：皆さま、こんにちは。私から申し上げたい点ですが、4人の訪問団がスペインから参りました。まず、こちらはスペイン都市連合を代表しております。また、バルセロナ州を代表しております。私から皆さまに対し、心から市長からの感謝の念をお伝えしたいと思います。温かくお迎えいただき、素晴らしい運営をしていただきました。この会合の実行準備に尽力してくださったことを大変うれしく思っております。

広島と長崎の式典にも参加させていただきまして、本当に深く感銘を受けました。被爆者の方々の話、また、広島と長崎の市における活動などについて、本当に深い感銘を受けました。私どもはこのような形で活動が進歩してきたことに大変満足しております。

併せて、皆さまと一緒に作業できたこと、これから作業できることを大変うれしく思っております。私どもはリーダー市、またスペイン都市連合としまして、新しい市がこの平和首長会議に参加できるようにしたいと思っております。同様に、絆をできるだけ強化していくことによって、他の組織との活動も推進していきたいと思っております。

また、持続可能な開発目標（SDGs）の実行に向けて私どもは力を合わせていくこととお話したいと思っております。だからこそ、このスペインのメンバー市に対しまして、この行動計画について、また、これから行う活動についてお話をしていきます。ありがとうございました。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございました。続きまして、ビオグラード・ナ・モル市、

---

お願いいたします。

**ヤスミンカ・バリヨ (ビオグラード・ナ・モル市参事官・クロアチア)**：皆さん、こんにちは。田上市長、ありがとうございます。本当に素晴らしい運営をされた会議、イベントであったと思います。

第9回のこの総会は、私たちの市としては3回目の参加となりました。ビオグラード・ナ・モルを代表して、今回は最高の総会だったと思います。つまり、スタッフの方々が素晴らしかったと思います。平和首長会議のスタッフの皆さん、事務総長、事務局の皆さん、本当に素晴らしいと思いました。行動計画もまとまりました。

そして、一番良かったのは、私にとっては若い人たちと触れ合った、交流できたということです。何年前か、私は小学校、高校、大学で教えた経験があったからかもしれません。そのことを思い出しました。昨日あのセッションに若い人と参加したということ、これは重要だと思います。平和教育は本当に重要なのです。若い人を通じた平和教育が重要です。若い人が私たちの将来です。心がいっぱいになりました。若い人たちが信じられないくらい本当に熱心に話をしていただいたのが素晴らしいと思います。

この熱意について、3年前に松井市長と共にニューヨークの高校に行ったことを思い出しました。広島の高校生も一緒に行って、ニューヨークの高校生と交流をしました。そこで広島の高校生が示した熱意、原爆のことについて一生懸命説明をしていらっしやった、その様子を見て胸がいっぱいになりました。それと昨日のことが重なりました。本当に日本の若者たちは素晴らしいです。日本の子どもたち、若者に誇りを持ってください。これが世界にとっての良い模範になってくるのではないのでしょうか。ありがとうございました。

**水田 光一 (長崎市広報広聴課長)**：ありがとうございました。続きまして、マラコフ市、お願いいたします。

**ミシェル・シボ (マラコフ市名誉事務総長・フランス)**：ありがとうございます。私も今までの感謝が述べられたのと同様に、主催者、参加者、また、広島市と長崎市に感謝を申し上げます。これで9回目の参加となりますが、私は本当にどのように変化してきたかということを見てきたのでうれしく思っております。過去を後悔するつもりはございません。なぜなら過去の取組みが補完しあっているのです。

補完性ということで一つ申し上げたいことがあります。今年の会議で、全ての国、アフリカ、アジア、そしてアメリカなどで、暴力の問題が何度も取り上げられました。そして、われわれの行動計画により、どうやって暴力が結び付いているか、そして、お互いにどうやって核兵器の強力な暴力が他の暴力に力を与えているかということを考えていきたいと思います。そして、最大の暴力である核兵器が我々に与える影響についても考えなければなりません。

隣国が核兵器を持っている、だからこそ、フランスにおいて平和首長会議を拡大するのはそう簡単なことではありません。しかし、この会議でもって、いろいろツールがあります。ですから、いろいろ協議を行い、そして、皆で、フランスがいつかこの122カ国が採択した核兵器禁止条約、つい最近、



## 記者会見

---

国連が採択したこの条約に加盟できるようにしたいと思います。ありがとうございます。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございます。続きまして、マンチェスター市、お願いいたします。

**エディ・ニューマン（マンチェスター市ロードメイヤー・イギリス）**：ありがとうございます。私からも感謝しております。首長、事務局の皆さんにも先ほど感謝を申し上げましたので、改めては申し上げませんが、私たちマンチェスターは最近テロの犠牲になったということから、今回、平和首長会議のアクションプランが、「安全で活力のある都市の実現」の中で、テロも含めて取り扱うようになったということを楽しんでいます。

テロだけではなく、人々の幸せに影響を与えることについて、取り上げようということは重要だと思います。平和首長会議の主たる目的は、核兵器のない世界をつくるということ、そして、世界恒久平和です。

私は今回、日本に初めて参りました。私たちのまちでは長く平和に取り組んできました。ただ、核兵器というのは、やはり広島・長崎に来て分かることが多いと思いました。本当にこの原爆の直接の被害で苦しまれた方がいらっしゃるからです。そして、被爆者の方のお話を伺いました。

そうなりますと、何人という数字だけではなく、一人一人の方がどのような経験をなさったか、実相というものが分かったと思います。家族を失われた、そして、放射線による病気で苦しまれたということも含めてです。でも、被爆者の皆さんが高齢になられても、自分たちの経験を人々に伝えることが重要だという気持ちが揺るがないことが素晴らしいと思いました。それは式典でも強く思ったことでもあります。

最後に、今、世界を破壊させる、人類を破壊させる核兵器がたくさん存在しています。その威力は広島・長崎に落とされた原爆よりもはるかに大きくなっています。できることを全てやって、都市の間、コミュニティの間で協力をして、組織をつくってキャンペーンを実施し、国際社会、政府に対して圧力をかけ、核兵器をなくす、廃絶するという、これが人類のために、明るい子どもたちの未来のために必要だと思います。昨日も今日も若い人たちといて、特にその気持ちを強くいたしました。ありがとうございました。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございます。続きまして、イーペル市、お願いします。

**ジェフ・ヴェルショレ（イーペル市市長代理・ベルギー）**：他の方がおっしゃったとおりだと思っております。主催者の皆さまに本当に感謝をしたいと思います。この美しいまちに温かく迎えていただきました。

感銘を受けましたのは、尊厳に満ちた広島・長崎における平和祈念式典でございます。被爆者の方のスピーチがありました。それから、この平和首長会議の会長・副会長が市長として読み上げた、平和宣言にも感銘を受けました。昨日ははっきりとメッセージを日本政府に対して出されたと思います。



そして、その場には日本の首相がいらっしゃいました。この会議は非常に素晴らしい運営をされたと思います。私たちはベルギーで平和を願う都市として、第1次世界大戦のときに苦しんだ経験がございます。私たちは、多くの武器を持つようになってしまいました。だからこそ、もっと平和のために各国、あるいは地域で取り組む必要があると思います。イーペル市には平和部局、そして、平和賞というものがあります。しかし、ノーベル平和賞ほどの知名度はまだありません。活動を推進するためのたくさんのアイデアが出ました。

また、理事会で皆さんと良い会議ができたと思います。4日間にわたりまして、この第9回総会において素晴らしい経験ができました。私自身は初めて日本に参りました。5日間滞在しておりますが、皆さんの優しさ、前向き、そして熱意に感銘を受けました。それが私の持った印象でございます。ありがとうございました。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございました。最後に、フリマントル市、お願いします。

**エイドリアン・グラモーガン（フリマントル市代表・オーストラリア）**：日本の皆さん、ありがとうございます。大変温かく私たちを迎え、そして、長崎・広島で両方とも心を打たれる式典に参加させていただきました。皆さまがなさる全ての活動は被爆者の皆さまへの愛と、温かい気持ちに満ち、そして、将来に芽を示したものでした。大きな責務ではありますが、しかし、厳然としながら、皆さまは世界に対して、大量破壊兵器をできるだけ早期に廃絶することが最も重要なことだというメッセージを示していらっしゃいます。

今回の総会は現世代、将来世代、さらにまた、原爆の惨禍を体験し、核兵器廃絶という責務を果たそうとしている被爆者に敬意を持って、平和首長会議が果たす役割を再認識するためのものであり、総会での取組みに敬意を表します。フリマントル、オーストラリアは遠い国ですが、しかしながら、この核兵器の影響から逃れられることができる人間はいません。迅速に行動していかなければなりません。

そして、平和首長総会に今回参加しまして、それぞれの市が歴史を持っていて、それぞれのコミュニティにおいて暴力や被害に遭われ、そして、その市は教訓として活かし、お互いに連携しながら平和なコミュニティを築いてこられました。そのような取組みをされている市長の皆さまに敬意を表します。平和を構築し、考え方、姿勢を変えるための実践的な手段を示してくれています。私は大きな希望とエネルギーと共に長崎を発ちます。皆さまも、これらの市の話聞き、自身のまちの歴史を発見し、紛争を世界の希望のまちに変化するための方策を見出していただけたらと思います。ありがとうございました。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございました。それでは、記者の皆さまからご質問をお受けいたします。ご質問の際は、最初に社名とどなたへの質問かを述べられてから質問内容をお願いします。なお、恐れ入りますが、予定の時間を過ぎております。この後、各市長はご移動の時間等のスケジュールがありますので、まず、2社からお受けしたいと思います。ご質問があられる社の方は



## 記者会見

---

挙手をお願いいたします。

**長崎新聞**：長崎新聞の山口と申します。行動計画について、二つ質問があります。一つは松井会長にですが、行動計画を決定した全体会議で、「安全で活力のある都市 実現を目指す」という柱を新たに加えることが核兵器廃絶、「核兵器のない世界」の実現という目的の実現にも、ひいてはつながるという話があったと思うのですが、そのつながりをもう少し詳しくお聞きしたいということです。

**松井 一實（広島市長）**：核兵器廃絶という直接的な目的は、最終的には恒久平和というか、都市において、そこでの市民生活の安心・安寧を確保するということだと思うのです。そして、今の段階で核兵器廃絶に向けての広島・長崎の取り組みに賛同して、これだけ多くの都市が参加いただいているわけで、その取り組みについて一定の成果が出た、つまり、条約が採択されたということです。

そして、この条約のさらなる課題、批准国を増やしていく上では、各都市における自分たちが抱える個別の問題、都市における恒久平和を願う上でのそれぞれの課題についても、同時並行的に皆さんで取り組むという状況をつくるのが初期の目的、つまり、核兵器廃絶に向けてのいろいろな取り組みをパワーアップするといいますか、強化することになるという位置付けであります。

実際、これまで何度も会議を続けていく中で、自分たち都市固有の問題もこの平和首長会議全体で取り上げながら、そして、核兵器の問題も取り上げる、それが恒久平和につながるという認識が浸透してきているというお話を聞いていましたので、それを今回正面から取り上げたということです。

**長崎新聞**：関連で、ミシェル・シボさんにお聞きしたいのですが、長い間、平和首長会議に参加されていて、以前から核兵器以外の問題についてどう取り扱うかというのは議論のテーマだったと思うのですが、今回、それが行動計画に盛り込まれたというのはなぜだと思われませんか。

**ミシェル・シボ（マラコフ市名誉事務総長・フランス）**：そんなに機械的にうまくいったかどうか、分かりませんが、ただ、今までいろいろ扱われたテーマは少しずつ変わってきております。例えば、時代より先取りしたテーマというようなものがあります。そういうものでも忍耐強く何度も繰り返していけば、実際にはそれが浸透してきます。

この会場に、イタリアの友人がいると思います。ガリレオの言葉にもあると思いますけれども、やはり時間がたてば自明の理が分かるわけです。私の年齢も関係してきますけれども、やはり内容の意味で、そして、この変化というのは、やはりフランスの都市がいろいろ今まで努力してきたからだと思います。多くの都市が随分前から、この平和首長会議に参加し、また、住民の下でも働き掛けてきておりました。

だからこそ、われわれは新しい理念を進めることができるという確信を持ったのです。そして、そういう私たちの考え方は、より多くの人々たちにも共有してもらえるとという確信を持ってきたのです。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：他、ございますか。どうぞ。



**朝日新聞**：朝日新聞の岡田といいます。今のと関わる部分なのですけれども、今回新たにテロや貧困、難民、そういう問題も取り扱うことが決まったということで、全体のお話としてはそういうことだと思っておりますけれども、それぞれ、せっかく皆さんいろいろな地域からいらして、先ほどの感想の中でお話しされた方もいらっしゃるんですが、それぞれの都市・地域で、新しく加わったテーマについてどういう課題を抱えていて、これからどう解決したいのかというのを教えていただければと思います。可能であれば全員と思っておりますけれども、もし、お答えいただきたい方がいらしたら、お一人だけ、どなたか。指名ですか。どなたがいいですか。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：海外の方がいいですか。

**朝日新聞**：そうですね。そうしたら、どなたでもいいのですが、フォンゴ・トンゴ市に、開発の問題も先ほど触れられましたけれども、その辺も含めて伺えれば。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：フォンゴ・トンゴ市、よろしくお願いたします。

**ケンファック（フォンゴ・トンゴ市長・カメルーン）**：アフリカというのは大変大きな大陸です。私たちはカメルーンから来たのですが、カメルーンはアフリカを代表する一つの地域です。しかし、アフリカはとても大きな大陸でいろいろな地域があります。

今、テロの問題があります。ボコ・ハラムというテロリストがいます。いろいろな国で人々を殺しています。それははっきりした正式な戦争ではない、非公式な状況です。結局、そういうテロリストたちが行動を起こし、私たちはいろいろな経験を積んできました。

日本でもいろいろなことを見てきました。そして、そういう経験を希望と結び付けて、国に戻りまして、努力をしていく。セミナーを開いたり、会議を開いたり、そして、特に若者に向けて活動をしたいと思っております。大人はテロリストが悪ということを知っていますが、若い人たちはテロが悪ということ、その悪の結果を知りません。そうすると、だまされてしまって、仲間に引き入れられたりするわけです。ですから、若い人たちに教育を施し、だまされないようにしなければなりません。私たちの国では麻薬を青年に与えて、あとは弾薬を持たせることになるわけです。そして、こういう会議の場に行って自爆テロをしてしまうわけです。自分を爆発させてしまう。ですから、教育が必要です。何も大義がないのに死んでしまうということが起こってしまっています。

私たちが今回満足したのは、非常に若い学生さんたちが参加しているからです。平和という概念に若い人たちが参加している、それによって平和が世界に広がると思っています。私は、皆さんが持っている経験を、例えばアフリカでセミナーを開いて広めてほしいと思っております。もし必要だったら、私を呼んでください。セミナーを開きます。皆さんの経験をアフリカの若い人たちと分かち合ってもらいたいと思っております。

皆さんには感謝しております。もう一度マイクで話す機会を与えてくださいました。平和をお金で買うことはできません。そして、平和がなければ、発展はありません。皆さんの平和の歩みを他の人



## 記者会見

---

たちにも伝えることができると思います。長崎で起こったことを決して、再度起こさせないようにする。今テロリズムはあらゆる形の爆弾を使っていますが、それは必要ないものです。世界に平和が来ることを求めています。肌の色が何であろうとも、兄弟である。私たちは兄弟であるということを再認識すべきでしょう。どうもありがとうございました。

**水田 光一（長崎市広報広聴課長）**：ありがとうございました。申し訳ございません。お時間の都合がありますので、松井市長も帰らないといけないものですから、ここで退席をさせていただきます。

残りの方でよろしければ、引き続きご質問をお受けしたいと思いますので、よろしくお願いします。他、ご質問がられる方、ございますか。

ないようですので、これで記者会見を終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。